

【学力向上フロンティアスクール用中間報告様式】

都道府県名	福島県
-------	-----

学校の概要（平成15年度4月現在）

学校名	福島県石川郡石川町立石川小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	4	3	3	3	3	2	21	32
児童数	76	95	91	91	104	116	5	578	

実践研究の概要

1. 研究主題

豊かな学びを創る子どもの育成

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 全学年
系統性を重視しながら研究を進めていくため。
- ・ 国語科・算数科
学力の基礎となる教科と考えているため。

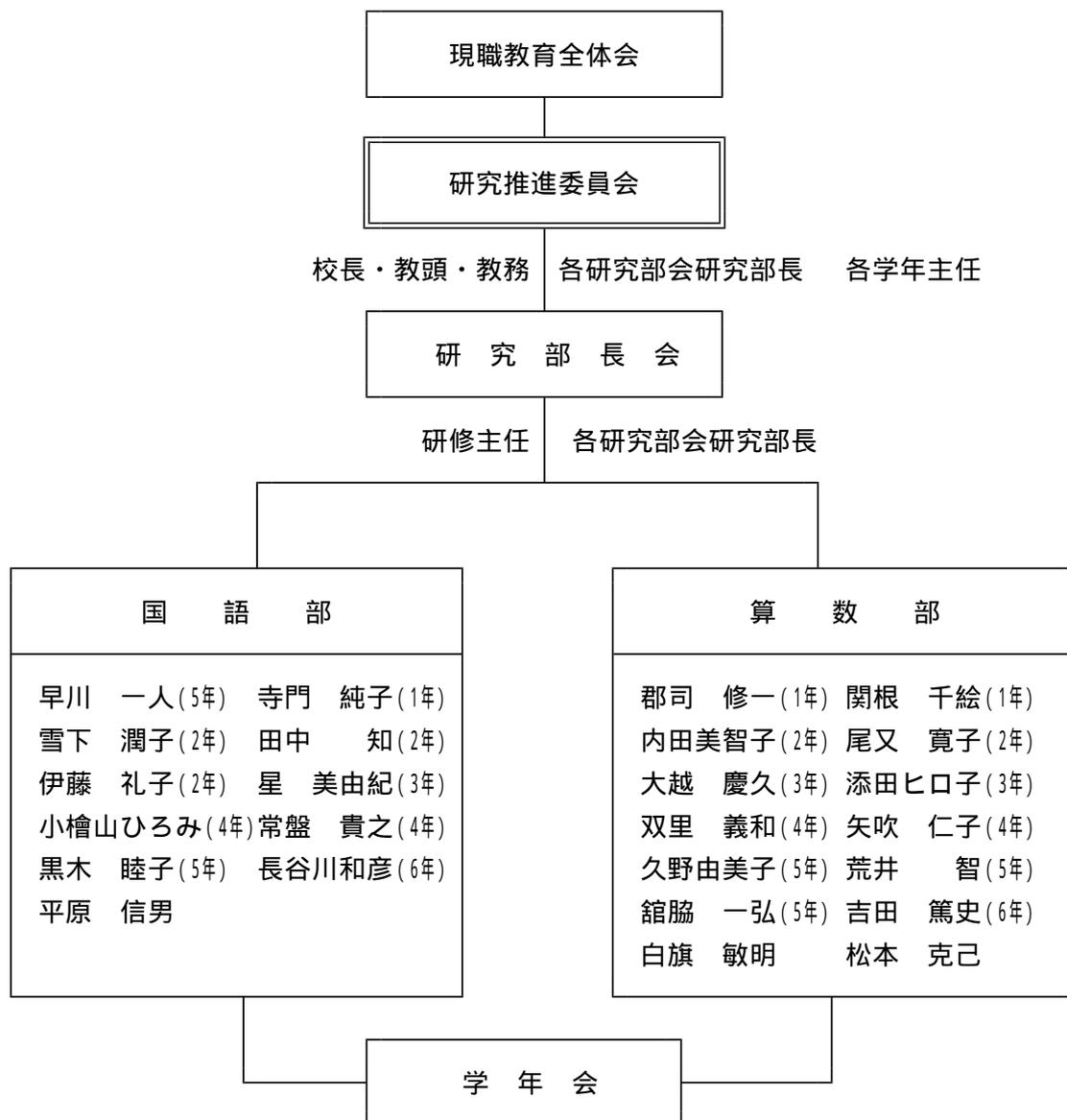
(2) 年次計画

平成15年度	<p>テーマ 豊かな学びを創る子どもの育成 ～基礎・基本の確かな定着をめざした学習活動～</p> <p>仮説 子ども一人一人に、内容を確実に身に付ける学習活動を展開し、基礎・基本を定着させていけば、豊かな学びを創る子どもを育てていけるだろう。</p> <p>研究内容・方法 <研究内容> 確かな学力を身に付けるための授業づくりと工夫 学びの連続を促す自己評価と単元を通じた評価の工夫 「基礎・基本を生かし、学びを獲得しようとする子ども」の学びの追跡</p> <p><方法> 授業研究 学力検査の結果から、落ち込みのある領域を研究領域に据えて実践する。</p>
--------	---

平成 15 年度	<p>学習指導案</p> <p>昨年度の形を基本として、修正を加える。</p> <p>「評価・指導」の位置づけを明確化する。</p> <p>公開の持ち方</p> <p>全員授業による（養護学級を含む）。授業は2時限で行う。</p> <p>授業後、（講演会・シンポジウム・パネルディスカッション・セッション等）を行う。</p> <p>その他</p> <p>習熟度別学習を3年生以上で何らかの形で行う。</p> <p>5・6年生の習熟度別学習は、昨年度の実践を基にさらに充実させる。</p> <p>5・6年生においては、国語の「読解指導」においても習熟度別学習を充実させる。</p> <p>1・2年生の少人数クラス編成を生かした小集団学習やいきいきプラン、加配教員・学習援助ボランティアによるT・Tを促進する。</p> <p>石尊プランとの一元化を図り、音読・練習問題5問を授業の中に位置づけ全校で取り組む。</p>
----------------	--

平成 16 年度	<p>テーマ</p> <p>豊かな学びを創る子どもの育成</p> <p>～基礎・基本の確かな定着をめざした評価と支援～</p> <p>仮説</p> <p>子ども一人一人に、内容を確実に身に付けるために評価をし、それに基 づき適時、適切な支援をしていけば、基礎・基本が確実に身に付き、豊か な学びを創る子どもを育てていけるだろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p><研究内容></p> <p>確かな学力を身に付けさせるための評価を生かした支援のあり方</p> <p>習熟度別学習を進めることによるきめ細かな評価や指導の促進</p> <p>学びの連続を促す評価の工夫と1単位時間内における評価</p> <p>「基礎・基本を生かし、学びを深めようとする子ども」の学びの追跡</p> <p><方法></p> <p>基本的には、15年度に同じ。</p>
----------------	---

(3) 研究推進体制



- (1) 現職教育全体会
研究推進にかかわる共通理解
- (2) 研究推進委員会
研究推進にかかわる企画、立案
各教科研究部会の連絡、調整
教科研究部会と学年会との連絡、調整
- (3) 研究部長会
各教科研究部会間の連絡、調整
研究推進に関わる連絡

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

習熟度別学習を取り入れ実践したことで、それぞれの児童が抱えている課題に対してきめ細かな指導を行うことができた。

例) 読書の楽しさを伝え合おう「プラム・クリークの土手で」
変容の記録 石川小学校 5年組

評価 児童	事前 得点 /6	習熟 度別 得点 /6	評価項目												
			一 ローラが 立ち止まった 理由を読みと ることができる。		二 ローラの 決心を読みと ることができる。		三 ローラの 様子を読みと ることができる。		四 母さんが ローラにして あげたことを 読みとること ができる。		五 母さんの 気持ちを読み とることがで きる。		六 母さんの 話を聞くロー ラの気持ちを 想像すること ができる。		
			前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	
1	5	6													
2	5	6													
3	1	5													
4	2	6													
5	4	6													
6	4	6													
7	6	6													
8	5	6													
9	2	6													
10	4	6													
11	6	6													
12	5	6													
13	3	6													
14	5	6													
15	5	6													
16	3	5													
17	6	6													
18	6	6													
19	5	6													
20	2	6													
21	4	5													
22	2	6													
23	4	6													
24	6	6													

2 5	6		6																
2 6	5		5																
2 7	5		6																
2 8	3		4																
2 9	3		6																
3 0	3		6																
3 1	6		6																
3 2	5		6																
3 3	3		6																
3 4	5		6																
3 5	5		6																

一単位時間内に「習熟・定着」の時間を効果的に位置づけることができた。

学習カードに学習ガイド的な要素（学習計画・自己評価・教師からの評価・テストの記録等）を盛り込んだため教師・児童ともに授業による変容を捉えることができた。

学習カードへの教師の書き込みが児童の学習意欲の向上に役立った。

子ども理解のために診断テスト、事前、事後テスト、座席表などを取り入れてきたことで子どもの学習の定着状況を把握し、その都度手だてを講じることができた。

達成基準や指導事項を明確にして授業を展開したため、教師が自信を持って指導することができた。

2. 今後の課題

「きめ細かな指導」をしていくことで教師が先回りしすぎて援助してしまうおそれが有り、支援内容の精選と発問の吟味を含めたより深い教材研究が必要である。

終末に繰り返しの指導や定着の時間を確保するために、短時間で効果的な自己評価や相互評価の在り方を工夫していく必要がある。

学習の系統性を十分理解し、子どもの実態を加味しながら、子どもの達成上の道しるべを描いて学習活動を展開できるようにしていかなければならない。

基礎・基本の確かな定着をめざすとともに、身に付いた基礎・基本を生かして豊かな学びができる子どもの育成ができる体制づくりと教師の指導技術の向上に努めていきたい。

学力等把握のための学校としての取り組み

1 目的

学力の実態を把握し、基礎学力の向上に生かす。

児童一人一人の学力の実態を把握し、今後の指導へ生かすための資料とする。
 学力検査の結果から、1年間の指導を省み、指導法改善への示唆を得る。

- 2 対象学年と児童数
 第1学年～第6学年の全児童
- 3 実施日
 平成15年2月13日(水)
 平成15年2月14日(木)
- 4 実施教科
 2月12日(金)全学年 2校時 国語
 2月13日(土)全学年 2校時 算数

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

7月16日(水)	公開授業研究会(算数授業)の実施 11:00～16:45 講師に東京学芸大学 伊藤説朗先生を招き、オープン研究会を行った。地区内から60名程度の参加があった。
11月12日(水)	研究公開 (国語・算数 全員授業)の実施 12:00～16:50 講師に国語教育研究会 野口芳宏先生を講師に招き、授業公開・講演会を行い研究成果の発表を行った。県内外から約300名の参加があった。
年 間	ホームページ開設
1月23日(金)	石川地区教育作品展出品

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に係わる加配の有無】 有 無